

「新時代バトルの鼓動」



まだまだ牙城は渡さないぞ！ #100



自己最高位でフィニッシュ #28



頂点まではもう少し！ #10



こちらも虎視眈々 #95



中団にはアルトバンが並ぶ #5

昨年の最終戦から4か月のインターバルを置いて、スパ西浦にエキゾーストがこだまする。K耐久東海シリーズ2015年が開幕。もはやK耐久レースの甲子園ともなったスパ西浦モーターパークには、29台のマシンが集結、新時代のバトルを予感させる。一気に桜の開花も進むような陽気の中、どんなストーリーが待ち受けるのか。

「KNN」クラス（軽NAのノーマルクラス）

昨年からのレギュレーションの変更はほとんどない今シーズンではあるが、その分マシンの熟成度が上がり僅差の戦いとなるのはモータースポーツの常道。今シーズンの注目はなんといっても新規格車の動向だ。他のクラスにおいては新規格車が勝ち始めており、KNNとKNOだけがいまだ未勝利となっている。開幕戦には9台が出走、うち6台が新規格アルトバン HA23V という布陣だ。

■予選

予選トップはシリーズタイトル奪還に燃える#100「HAC もらいものビート」が1'09.612。2番手は#28「LIMITLINE トウディ」1'10.369と旧規格が占める。タイム的には旧規格車に分があるか。

3番手には#10「FASTOUT アルト」が1'11.256で新規格車のトップ、4番手は#95「KHK アルト」1'11.771、5番手#444「TeamYKSR アルト」1'13.628、6番手#5「PROJECT K アルト」1'14.142、7番手#6「ロッキーレーシング DXL アルト」1'16.051、8番手#74「アルジェンタートアルト GT」1'16.817と、新規格アルトが隊列をなす。最後尾はトラブルで出遅れた#29「BLAST ヴィヴィオ」が1'28.670となり、全9台が無事出走となる。

■序盤

序盤のステントをコントロールするのは#28「LIMITLINE トウディ」、それをピツタリマークするのは#100「HAC もらいものビート」、ここは旧規格車が1-2体制。アルト勢の中でも熾烈な争いが開始、タイム的に速い#10「FASTOUT アルト」、#95「KHK アルト」を中心に上位進出をかけて、僅差の戦いとなっている。もちろん、#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、#5「PROJECT K アルト」、#74「アルジェンタートアルト GT」、#444「TeamYKSR アルト」も離されたくはない。今回唯一のマシン#29「BLAST ヴィヴィオ」も周回を重ねている。

■中盤

中盤のステントでも旧規格車同士のトップ争いが続く。#28「LIMITLINE トウディ」が先頭で、ルーティンのピットインを早めに行う#100「HAC もらいものビート」が虎視眈々とトップを狙う。

一方アルト勢の先頭争いは表彰台の一角をかけた争いでもあり、こちらは#95「KHK アルト」と#10「FASTOUT アルト」がほぼ互角の争い。それをマルチニ風ストライプが鮮やかな#6「ロッキーレーシング DXL アルト」などが追っ展開。初参加となる#74「アルジェンタートアルト GT」も後方ながらも紹介を重ねており、完走を目指したいところ。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

スタートから2時間、この時点でのトップは#100「HAC もらいものビート」80Lap、途中他クラスでの赤旗があったため周回数は伸びないが、実力チームらしくトップをキープ。2位走行は#95「KHK アルト」で同じく80Lap、最後まで食らいつきたいところ。3位は#28「LIMITLINE トウディ」79Lap、逆転での優勝を狙う。4位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」79Lap、5位#10「FASTOUT アルト」78Lapとこの辺りが表彰台争いだ。あと1時間余りしっかり最後まで走り切りたい。

■最終結果

そして、今シーズンの開幕戦のウイナーは、#100「HAC もらいものビート」昨年1P差で奪還できなかった王座を今年こそ取り返したいとの思いがこもった走りで開幕戦を制した。2位には#28「LIMITLINE トウディ」。終わってみれば旧規格車が1-2、まだまだ主役の座は渡さない。熾烈な表彰台争いを勝ち残ったのは3位#10「FASTOUT アルト」、昨年の最高位は2位でいよいよ今年初の頂点を狙ったがわずかに届かず…しかしながら確実に”その時”は近づいてはいる。4位は#95「KHK アルト」、こちらも新規格勢の中では速さを見せた。5位は#5「PROJECT K アルト」、6位#6「ロッキーレーシング DXL アルト」、7位はペナルティなどがあった#444「TeamYKSR アルト」、8位は#29「BLAST ヴィヴィオ」、9位は#74「アルジェンタートアルト GT」で全車無事完走。

■総評

期待された新規格車の初優勝はならず、チャンピオン経験チームの強さが見られた開幕戦だった。これもまた耐久レースの醍醐味、HACチームさすがです、あつてもオイルは逃しましたね。



まだまだ高い壁になるぜ！



マルティニストライプはグッときます #6



ペナルティ2回はもったいなかった #444



予選から復調して完走 #29



初出場で見事完走 #74





シーズン最高の滑り出し #66

KNCクラス（軽NAのクローズドクラス）

昨年の最終戦に新規格初のクラス優勝を成し遂げた愛知工科大は、卒業シーズンということで開幕戦は欠場。タイトル防衛を続ける王者ネコマル 2 に挑むのは VISCONTI、その名にふさわしい栄光を手にする事ができるか。ベテランチームの「明智自動車スペシャルトゥデイ」、#41「オヤジ青春プロジェクトトゥデイ」さらに新規格車の#51の「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」を含めた5台が出走。

■予選

予選トップは#66「VISCONTIトゥデイ」が1'06.923、堂々の首位発進。2位には#60「明智自動車スペシャルトゥデイ」1'06.958でその差はわずか。予選3位は最強の王者#25「アカミネコマル 2トゥデイ」1'07.736が余裕の様子見か。4位は今季車名を変えた#41「オヤジ青春プロジェクトトゥデイ」1'07.736、5位が#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」という布陣。

■序盤

スタートでペースを掴んだのは#60「明智自動車スペシャルトゥデイ」、それを#66「VISCONTIトゥデイ」が追う展開。3位で#41「オヤジ青春プロジェクトトゥデイ」が追走、それにしてもいいネーミングです。4位に#25「アカミネコマル 2トゥデイ」、ここでも一歩下がった位置から様子見か。#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」が5位という序盤戦。

■中盤

中盤のステイントでは#66「VISCONTIトゥデイ」がトップに立つ。それを追うのが#25「アカミネコマル 2トゥデイ」、実力派チーム同士のバトルが見られる。表彰台争いは#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」と#41「オヤジ青春プロジェクトトゥデイ」。序盤快調に周回を重ねた#60「明智自動車スペシャルトゥデイ」だったが、トラブル発生でピットに入ってしまう、なんと復旧を試み戦線復帰を図る。

■終盤

ゴール1時間前になってトップは#66「VISCONTIトゥデイ」、86Lapで首位キープ。それを5Lap差で#25「アカミネコマル 2トゥデイ」が追う、まだピットストップを残しており一歩乱あるか。3位走行は#41「オヤジ青春プロジェクトトゥデイ」81Lap、そして4位が#51「キヤドカーズ エッセ by 川晋工芸」、同じく81Lap。優勝争いと並んで表彰台争いもヒートアップ。#60「明智自動車スペシャルトゥデイ」は懸命の修復で、チェッカーに間に合わせたいところ。



今季もまた2位発進 #25



自己最高位をGET！ #51



16秒届かず ペナルティはもったいない #41

Race Report

■最終結果

濃密バトルを制したのは#66「VISCANTIトゥディ」、追いつがる2位以下を振り切って昨年の第2戦以来のトップチェッカー。2位には#25「アカミネコマル2トゥディ」、王者らしく最後は追い込んだが1Lap差で届かず、今シーズンの開幕戦は2位発進となった。

そして表彰台の一角に滑り込んだのは、#51「キャドカーズ エッセ by 川晋工芸」、同一Lapの熾烈なバトルの結果、16秒差で表彰台をGET！チーム初の表彰台となった。惜しかった#41「オヤジ青春プロジェクトトゥディ」は4位。実は#41「オヤジ青春プロジェクトトゥディ」黄旗追い越しDスルーペナルティを受けておりこれなければ…

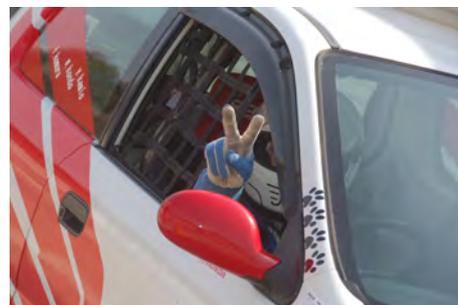
何とか復帰して72Lapを記録した#60「明智自動車スペシャルトゥディ」だったが、規定周回数に届かず涙をのんだ。



懸命に修復しコース復帰を果たすも #60

■総評

実力のあるチームが出場し、要所要所で見ごたえのあるバトルを展開した開幕戦。タイトル奪取に向けて#66「VISCANTIトゥディ」がまず1勝。それを#25「アカミネコマル2トゥディ」が追うというシーズンインとなった。そして3位を獲得した#51「キャドカーズ エッセ by 川晋工芸」はこの日唯一の新規格車、レース中の最速Lapは9秒ながらうまくまとめて自己最高位となった。惜しかった#41「オヤジ青春プロジェクトトゥディ」やリタイヤした#60「明智自動車スペシャルトゥディ」も実力があるだけに次戦以降の巻き返しが見ものだ。



余裕ですがいいんですか！？



勝利は渡さん！



オイルは渡さん！



序盤快調に飛ばしたが…



KNOクラス（軽NAのオープンクラス）

昨年 KNN でタイトルを獲得した#37「JKレーシング EUROU ビート」が帰ってきて、同門バトルが激化しそうな予感。もちろん昨年チャンピオンの#36「JKレーシングユーロトウディ」もやすやすと明け渡すわけもなく、僅差の戦いが予想される。さらにこのクラスには惜しくも連続タイトルを逃した#38「デモリッションエグゼトウディ」、#223「ヤマモリンダトウディ」などがエントリー。注目は#698「RN698和泉管Mira」。L250ミラバンにKNOクラスで許容されたリミットまでの排気量アップを施したEFエンジンを搭載、使うピストンは2輪用というチャレンジングなマシン。ご存じ岡Pもステアリングを握る予定。



このクラスでも新規格の勝利！ #698

■予選

予選トップは、#223「ヤマモリンダトウディ」がただ一人 4 秒台に入れる 1' 04.862 という好タイムをたたき出す。2 番手は#36「JKレーシングユーロトウディ」1' 05.207 とこちらも十分速い。3 番手につけるのは#38「デモリッションエグゼトウディ」が 1' 06.333 で続き、4 番手には#34「JKガチャピントウディ」1' 06.627、5 番手にクラスチェンジしてきた#37「JKレーシング EUROU ビート」1' 07.156、そして注目の#698「RN698 和泉管 Mira」1' 08.162 はほとんどできたばかりということで手探りの予選で、クラス最後尾からスタート。



一門の中では最高位 #36

■序盤

スタートでトップに立ったのは#38「デモリッションエグゼトウディ」、タイトル奪還に燃えて最初のステイントを快調に飛ばす。2 番手は#37「JKレーシング EUROU ビート」、3 番手#36「JKレーシングユーロトウディ」と JK 勢が続く。注目の#698「RN698 和泉管 Mira」は 4 番手走行。予選トップだった#223「ヤマモリンダトウディ」は出遅れたか。さらに#34「JKガチャピントウディ」はトラブルからか、周回数を伸ばすことができていない。



クラスチェンジ初戦は表彰台へ #37

■中盤

スタートから 40 分過ぎ、快調にトップを飛ばしルーティンのピットも終えた#38「デモリッションエグゼトウディ」にアクシデント、S 字先でコースアウトから転倒してしまった。幸いドライバーは無事だったが、マシンの修復はできずリタイヤとなった。これにより上位陣に大きな変動が...ペースを掴んできた#698「RN698 和泉管 Mira」が気が付けばトップに。2 位には序盤の遅れを取り返してきた#223「ヤマモリンダトウディ」があがる。3 位、4 位は#37「JKレーシング EUROU ビート」、3 番手#36「JKレーシングユーロトウディ」、5 位が#34「JKガチャピントウディ」というオーダー。



新規格勝ちました！！



ポテンシャルも高いぞ

Race Report

■終盤

終盤になってもトップをキープする#698「RN698 和泉管 Mira」、マシンとしては事実上の初イベントということで多少のトラブルは覚悟したようだが、ここまで快調、残り 30 分を切って、107Lap を消化、2 位の#36「JKレーシングユーロトゥディ」に 3Lap の差をつけている。このままいけばこのクラス新規格初勝利だ。3位は#37「JKレーシングEUROUビート」が97Lap、トップとは少し離されたが表彰台狙いで慎重になる。4位は#223「ヤマモトリンダトゥディ」、5位は復調してきた#34「JKガチャピントゥディ」となっている。

■最終結果

少々荒れたレースとなった開幕戦を制したのは、#698「RN698 和泉管 Mira」、見事新規格車初勝利。2 位には2Lap 差で#36「JKレーシングユーロトゥディ」で実力のあるところを見せた。3 位は#37「JKレーシング EUROU ビート」が終盤スロ一走行となってしまったが、何とかチェッカーまで守りきりクラスチェンジの初戦を表彰台で飾った。

4 位には#34「JK ガチャピントゥディ」、そして途中上位を走った#223「ヤマモトリンダトゥディ」は 91Lap を走ったところでリタイヤとなりチェッカーを受けられなかった。

■総評

なんといってもこのクラスにおいても、新規格車が初勝利を飾ったのが大きなピック。2 輪ピストンでボアアップといういかにも改造クラスという仕様のマシンだが、それもこのクラスの楽しみの一つ。L250 のバンは比較的タマがあるようなので、こんな遊び方もありというのは岡 P のコメント。

これは新たな時代の到来なのだろうか、次戦以降の動きに注目だ。



ガチャピンは表彰台に届かず #34



”リンダ”はチェッカーに届かず #223



気合十分だったが #38





走りにも風格が！ #93



新規格の刺客 #330



表彰台は守った #112



昨年第3戦以来のポディウムならず #69

KTCクラス（軽過給機のクローズドクラス）

昨年はアルトターボとミラターボの新規格車が1勝つづを上げたが、シリーズは旧規格ワークスとカプチャーノの勝負となったこのクラス、新旧交代の場面がみられるかに注目。開幕戦には昨年のシリーズを争ったチームを中心に4台が出場。

■予選

予選トップは#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'06.794が昨年チャンピオンの力を見せた。2番手には、#112「白須賀会カプチャーノ」1'07.525、今年こそはタイトルにとの思い。3番手に新規格車の#330「DIXCELコンパーノミラ」1'08.830、4番手は#69「モモヤマレーシングアルト」1'09.767という予選結果。

■序盤

序盤から#93「藤枝マリンダイビングアルト」が快調に飛ばす。もちろん#112「白須賀会カプチャーノ」と#330「DIXCELコンパーノミラ」もしっかりと食らいつき、#69「モモヤマレーシングアルト」もまだまだ離されない。

■中盤

中盤も#93「藤枝マリンダイビングアルト」が首位キープ、後続とのギャップをコントロールしているようだ。#112「白須賀会カプチャーノ」と#330「DIXCELコンパーノミラ」の2台による首位への挑戦権をかけての争いが激化、生き残るのはどちらだ。

■終盤

終盤に入り、トップへの挑戦者は#330「DIXCELコンパーノミラ」のようだ、#93「藤枝マリンダイビングアルト」がピットストップの間に首位に立つシーンもあり、ゴールまでどこまで詰められるかに注目。そんななか#69「モモヤマレーシングアルト」が#112「白須賀会カプチャーノ」を追い上げ中、こちらは表彰台をかけての争い。

■最終結果

#93「藤枝マリンダイビングアルト」が振り切り、幸先よく1勝をマーク。逆転を狙った#330「DIXCELコンパーノミラ」は1Lap及ばず2位。3位にはこちらもポジションを守った#112「白須賀会カプチャーノ」。終盤ペナルティもあった#69「モモヤマレーシングアルト」は表彰台には届かなかった。

■総評

昨年の王座から、走りにも自信のようなものが感じられた#93「藤枝マリンダイビングアルト」。このまま走る可能性も…ライバルたちには手ごわいチームになってきた。



Tシャツのデザインが気になる





初夏のような陽気に負けない熱戦の開始！

KTOクラス（軽過給機のオープンクラス）

昨年新規格車としては初のチャンピオンに輝いた#32「爆走あばれ馬ミニカ」、マイナー車ながらその熱意とノウハウの蓄積が花開いた。そして今シーズンは追われる立場となったあばれ馬っぷりはいかに！

追う一番手はなんといっても#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」。プロドライバーとジムカーナチャンプを揃えた豪華なドライバー陣に、熟成されてきたアルトバンターボは有力候補。そして#14「ガレージイシヤマ TTS アルト」もプライベーターの雄として数々の勝利を重ねてきたチーム。そして昨年の第4戦から出場の三重からの刺客、#101「午後の緑茶@ワイドカプチーノ」もポテンシャルアップを図っている。さらに昨年の最終戦のクラッシュから復活の#717「Team Jatsun」がポディーを入れ替え KTO クラスに参戦、それぞれに想いをもっての5台の争い。

■予選

予選トップは全体のPPで#32「爆走あばれ馬ミニカ」1'04.172、昨年の王座で自信を得たのか、一発の速さも増してきているようだ。その横につけたのは、#101「午後の緑茶@ワイドカプチーノ」、昨年もたびたび速さを見せたマシンが1'04.306でフロントロー獲得。予選3位は#14「ガレージイシヤマ TTS アルト」1'05.067でこちらも実力派。予選4位は#717「Team Jatsun アルト」1'07.578、バンにターボエンジン搭載というKTOチューニングなマシン、KTC時代にはクラス優勝も飾っているだけに気になる存在。

出遅れたのは#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」、タイム計測のタイミングを誤ったとのことで、記録されたタイムは1'16.495はクラス最下位、ここからの追い上げはどうなる。

■序盤

スタートでトップキープは#32「爆走あばれ馬ミニカ」だったが、すかさずトップを奪った#101「午後の緑茶@ワイドカプチーノ」、#14「ガレージイシヤマ TTS アルト」もぴったり3番手を追走。#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」は現役S耐ドラの奮起でぐんぐん追い上げ開始だ。#717「Team Jatsun アルト」もマシン完成から時間がないとは思えない軽快な走りで周回数を伸ばしていく。

■中盤

最初のステイント終えたところトップ奪取に成功したのは#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」、しかしながら#14「ガレージイシヤマ TTS アルト」と#101「午後の緑茶@ワイドカプチーノ」も遅れまいと追走、#32「爆走あばれ馬ミニカ」もピットタイミングを計りながら逆転を狙う。#717「Team Jatsun アルト」もまだまだ離されない。

■終盤

ゴールまで残り一時間の時点で、トップを行くのは#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」だが、他チームの追い上げも急、特に#32「爆走あばれ馬ミニカ」はほぼ同一周回で追いつがる。さらに#14「ガレージイシヤマ TTS アルト」も上がってきており、全く予断は許されない。少し遅れたはいえ#717「Team Jatsun アルト」もあきらめる気配は無く、総合優勝も絡んでの近年まれにみる熱戦。



最後は振り切って開幕戦優勝 #9



最後のペナは痛かったが堂々の結果 #32



こちらもプロ相手に接戦を演じた #14

Race Report



■最終結果

ゴールまで30分を切ろうかといったところで、他クラスのコースアウトでSCラン。ここで#14「ガレージシヤマ TTS アルト」を#32「爆走あばれ馬ミニカ」がパス、しかしこれは黄旗中で#32にドライブスルーペナルティ。これにより、最後までトップをキープした#9「テクニカ Motys 制動屋アルト」が開幕戦のトップチェッカー。#32「爆走あばれ馬ミニカ」は2位、3位は#14「ガレージシヤマ TTS アルト」という表彰台。レース中の最速 Lap を誇った#101「午後の緑茶@ワイドカプチャーノ」も速さという意地を見せて4位、5位#717「Team Jatsun アルト」も無事完走という結果。

■総評

実力派や韋駄天マシンが揃った KTO の開幕戦は、僅差の勝利で順位が付いたが、その内容は実に濃いものであった。新旧ターボマシンが入り乱れて総合優勝を争うまさにレースの華ともいえる華やかさがあった。プロやエキスパートとも同条件で楽しめる、爽やかなスポーツマンシップに乾杯！

注目の対決を制したのは2台の新規格というのも興味深いが、熟成された各マシンチームがどのように一年間を戦った行くか・・・アツい戦いが今年も始まった。



速さはさすがの韋駄天ぶり！ #101



開幕戦は無事完走！ #717



スタートから白熱したバトルを展開



ジムカーナ全日本チャンプも楽しんでくれた